

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600493		
法人名	有限会社 富南		
事業所名	グループホーム富南の郷里(1階)		
所在地	静岡県三島市安久660番地の10		
自己評価作成日	H26年10月31日	評価結果市町村受理日	平成27年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=2270600493-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34		
訪問調査日	平成26年 12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『富南の郷里』は、伊豆の玄関口の三島市の最南端に、函南町との境にあります。豆州志稿の秋山富南が生まれ育ったおよそ3000坪の敷地の中に2階建てで建てております。北に富士山、東は箱根連山が見渡すことが出来、心とみ、ゆっくり、ゆったりとした時間を過ごせる環境です。三島市安久の近隣の人たちのご理解とさまざまな応援に支えられ「その人と共にある」を常に想い、ご家族をはじめ、地域の方々との連携をとりながら職員一同、地域福祉のために努力してまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は“入居者のその人らしさのある日々を、ゆったりとした空間と、ゆっくりとした時間を提供させていただきます”の理念に沿って、入居者が職員の様子を見て落ち着かなくなる事の無いよう、忙しく動くことなく、寄り添って接している。介護経験の豊富な勤続年数が長い職員が多く、昼夜を問わず状態が変化する入居者の様子を把握し、全職員で周知、共有し支援している。
主治医並びに提携医による医療連携が取れていて、緊急時の往診、24時間オンコールの訪問看護の充実で入居者・家族・職員は安心して過ごしている。

as		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない		
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない						

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人たちと共にゆったりゆっくりと第三の人生を共に歩む。」理念に向けて、ゆったりとした空間、時間を公平・平等に提供できるように日々取り組んでいます。	理念にある「ゆったり、ゆっくり過ごせる時間を大事にするサービス」を大事にし、職員が理念の共有に努めている。ベテラン職員が多いことから落ち着いた雰囲気を醸し出し、職員が忙しくサービスをすることのないよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の組に所属し自治会の行事に参加したり、町内清掃を一緒に行ったりしている。子供110番の指定もうけている。	毎年9月に行う「生き生き祭り」はグループ全体の一大イベントで開催場所となっている。地域への参加も積極的に促し交流の場としている。地域の参加者が増えるようポスティング等を行い取り組んでいる。近所の人から畑のトウモロコシや花などの差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議の中で地域包括と、共に認知症ケアの勉強会等をおこない、近隣町内の情報も得て参考にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハット・事故報告・行事など、議題を設定し行っている。入居者様のサービス状況を報告し、助言をもらいサービス向上につなげている。	偶数月の第3金曜日と決め、町内会長・地域包括職員・介護相談員・民生委員・老人会会長等の出席があり、開催されている。提携病院やかかりつけ医からの利用者の身体的な報告やヒヤリハットなどの報告となっている。家族の参加は時々である。	運営推進会議は事業所の運営にとって重要な位置づけであり、家族の出席等積極的に促すことで、事業所の課題や問題点について意見を吸い上げることができるような取組に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会等に積極的に参加し、情報交換でホームの運営やサービスの質の向上、地域との交流に役立っている。また市町村担当職員などと連絡を密にし、相談や助言を受けている。	3か月に1回定期開催されるグループホーム連絡会の場で、テーマごとの情報交換と改善について話し合いが持たれている。市からの出席もあり、地元FM放送でも取り上げてもらい、グループホームについて広く知ってもらうための取り組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会をおこない、理解を深めている。	身体拘束に関する委員会を、グループ事業所の責任者のメンバーにより立ち上げ、3か月ごとに研修を行っている。今年1月には、職員全員にアンケートを行い、基本的な知識等を分析し、よりスキルアップを図る取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故等発生してしまつたらすぐに事故報告書を作成し、職員全員のサインを記入し報告と情報の共有に努めている。ユニット会議で議題にあげ、職員の言動が虐待になっていないか指導している。		

静岡県(グループホーム富南の郷里 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に付いて学び、必要性に応じ関係者と報告、連絡、相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族等に同席していただき、契約書及び重要事項説明書の読み上げを実施し、納得した上で契約を終結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関入口に設置。面会時など、話す機会を持ち、日頃から意見、要望をきいている。	請求書の支払いを現金で持参してもらうことで、3分の2の家族が毎月来所、計画作成時、電話等で事業所への意見や要望を聞く機会を作り家族とのコミュニケーションを図る取り組みをしている。運営に関する内容はあまりないが個人的な話は聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ユニット会議などで、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。代表者は管理者会議において、管理者との意見交換をおこなっている。	グループの代表者は、年1回全職員に個人面談を行うなど、意見の吸い上げに取り組んでいる。入居者の高齢化が進んだことから、躓きやすい畳コーナーをフローリングに変えるなど、具体的な提案を受け入れて改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の配布状況、給与明細の見方を作成し開示している。各々の職員の職務における達成度について評価をおこなったり、資格習得における個々の向上心を把握し処遇につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に合わせ、シフト上可能な限り研修機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われている管理者会議、運営推進会議、グループホーム連絡協議会にて、情報の共有、意見交換をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の行動、表情、言動を観察しつつ、言葉がけをし、穏やかに過ごせる様工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学、相談にてご家族等の、不安を減らせるように話を伺い、ホームの説明をし、ご家族の不安を少しでも解消できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、面接時に伺った情報及び、入居前に受けていたサービス事業所より情報提供を受け、必要な支援を見極めている。また、他のサービスが必要であれば情報を提供し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として職員が頼るような場面もあり。言葉がけに配慮し、共同生活を送れるように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況を伝えたり、ご本人の意向をふまえ今後の支援についての話を面会時等に話し合い、出来る限りのご家族のかかわりをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族等に、ご本人の馴染みの人、物、場所等を伺い、可能な限り取り入れ、入居前の関係を維持できるように支援している。外からの来客者には又気軽にお越しいただけるように言葉掛けをさせていただいている。	家族の支援で、入居前からの美容院に通っている人、家族と一緒に夕食やお墓参りに行く人がいる。年賀状や暑中見舞いの差出支援をし、家族への連絡を絶やすことない取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役となり、その時の状況、個々の状態、入居者様同士の相性等考え支援している。		

静岡県(グループホーム富南の郷里 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族が訪問してくれたり、手紙等にて近況を知らせてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情、言動、行動からくみとれるように配慮し、ユニット会議などで職員間で共有して、本人の意向に沿えるように検討している。	ゆったりとした時間を過ごせるよう、1対1になる入浴時などの機会を通し、思いの把握に努めている。月1回の全体会議や毎朝のミーティングを通じ、入居者本人の思いについて情報の共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族等から情報を収集し、後々生活していく上で知り得た情報は、ご家族等の面会時に確認し、記録などに残して、良いケアにつなげるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に生活記録。業務日誌・生活チェック表などに記入し、申し送ることで暮らしの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族等とは面会時に、意見を聞き、医療面では往診、受診時に。ご本人には、一対一で話しやすい空間をつくり意見を伺いそれぞれの意見を、毎月のユニット会議で話し合っている。	状態が変化した時、家族に状態を伝え意見を聞き、医師・看護師の意見から、月1回、ユニット毎のカンファレンスで主に身体の状態について話し合い、現状に即した介護計画を作成している。家族に報告し、全職員は回覧で周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートに、いつもと違う状況や新たな気づきを記録しユニット会議などで話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	弊社における同事業所間の会議で話し合い、可能な限り要望に近づけるよう取り組んでいる。		

静岡県(グループホーム富南の郷里 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園、神社への散歩、店での買い物など暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医に通院していただくか、ホームと連携している訪問診療の医師に移行するかは、ご本人とご家族の希望に沿って決めている。	入居前からの馴染みの主治医に家族に状態を伝え、家族が同行受診し、結果は聞いている。提携医への受診は独居の人、家族が遠方で希望する人は職員が同行で受診し、状態が変わった場合、家族に報告している。月2回往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師に、日常の中でとらえた情報や、気づきを伝え、健康管理、医療面における支援、相談をし適切な受診や、看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、入院前の体調変化や、バイタルチェック、ADL等の情報を提供し、面会時や電話で病院関係者と連絡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルの説明を行い終末期の希望を聞き、職員、ご家族等と共に共有している。重度化した場合は、ご家族等の意向を確認し、医師を交え職員、ご家族等と話し合いを持ち方針をたてている。	医師や医療機関との連携体制・重度化した場合の対応に係る指針を明文化した書類があり、契約時に説明している。本人・家族のキーパーソンとの意向の確認をし、医療連携を取りながら、家族の協力の下、看取り支援をしている。身体的な対応・緊急対応マニュアルがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し確認、対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回以上の災害時の訓練、緊急連絡網を作成し通信・連絡方法の職員訓練をおこなっている。風水害や地震を想定した避難マニュアルを作成し、運営推進会議でも防災の話をしている。	夜間・風水害・地震等を想定した訓練をしている。災害時外部の人が入った時、事務所の壁に入居者の状態がひと目で解る表を掲示してある。運営推進会議で防災対策机上訓練の話をし、日頃から事業所の訓練への参加の声掛けはしている。地域の訓練に職員が参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の返答能力に応じた質問方法、ご本人が思っている現実をなるべく否定しないように対応している。入居者様が集合している場所では、内容により耳元で言葉掛けをしている。	管理者は、入居者と「馴れ合い」にならないように常に注意をはらい、職員に徹底して周知している。入居者との会話では声の張り上げに注意をし、他の入居者に配慮しながらプライバシーの確保に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけではなく、身振り手振りなどの動作などからご本人の思いを受け止め、一人一人の表したいことを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入床、等ご本人の希望やペースに合わせた過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容師を利用。ホーム内で職員が行う事もある。着替え準備の際は、職員が関わり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつは、一部好みを聞いて提供している。時に食事の前の準備、片付け等を一緒にして下さる方もいるが、難しい。	高齢者向け食材サービス会社から3食分、カロリー計算された献立表と食材が届き、職員が献立通りに作って、個々に合わせた形態にしている。壁に本日の献立が掲示しており、職員が食事前に説明すると「わあー美味しそう」と声が出る。テレビを消し、BGMを流して、職員は声掛けし、介助・見守りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量を主食、副食に分けて毎回記録している。水分摂取量の少ない方には、ゼリーや好みの飲み物を提供している。一人一人の状態や力に合わせて、刻み、ペースト食等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの言葉掛けを毎食後行い、個々に実施している。自力でのケアが困難な方は介助にて実施している。眼前には義歯をつけ置きしていただくように言葉掛け、介助している。		

静岡県(グループホーム富南の郷里 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表に記入しながら一人一人の排泄パターンを把握し、時間的な言葉が掛け、表情、言動、行動に注意を払い、誘導するなど自立に向けた支援をおこなっている。	入居者は概ねリハビリパンツを着用していることから、排泄パターンを職員が把握しており、スムーズな排泄が行われるように支援し、トイレの自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便の周期の把握、朝食前に牛乳を飲んでいただく。水分補給(果実ゼリー)体操への参加を進めている。必要あれば、主治医に相談し排泄のコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週二回入浴していただけるようにし、ご本人の状態にも合わせ、日を差し替えるなどの対応をしている。状況によっては時間を問わず、シャワー浴などの対応もしている。	お風呂は炭酸泉浴が設備され入浴を楽しめる支援をしている。入浴時間は13時半から15時半となっているが、希望者には他の時間帯でも対応している。拒否される人に時間や職員を代える、「1番風呂だよ」等職員の声掛けに工夫をし入浴へ誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量をなるべく多くするようにし、昼寝をし過ぎないように配慮し、夜間に少しでも睡眠量をと確保できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があったり、新しく処方された場合は口頭と書面で随時職員間へ申し送り理解するようにしている。薬の変更時には、体調変化など注意深く見守り、経過を記録に残し、必要に応じて主治医、看護師、薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に沿って、また希望に応じて新聞を取ったり、個々の力を生かした役割を持ち花見、外食、ドライブ、買い物催し物などの参加も、個々に呼びかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクレーションを年に何回か設け、外出している。入居者様のADL低下、相性等を考慮し少人数の(1対1)対応での支援もおこなっている。	立地環境を活かし、希望者には事業所に隣接する大場川の土手の散歩を日課としている。冬の寒い日は南側の日差しのある場所でくつろげるよう工夫をしている。ホームの回りの散歩は一人ひとりに職員が対応し、きめ細かい支援に取り組んでいる。	

静岡県(グループホーム富南の郷里 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の際にご家族等にトラブルがあり得ることを説明し、希望があれば必要最低限のお金を所持してもらっている。買い物へ、同行した際には希望を聞き、後日請求書として購入もしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればホームの電話を使用している。年賀状、暑中見舞い等出来る範囲でご本人に書いて頂くように支援している。書けない方には、職員が代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活音を愉しんでいただき、日中の光に対してはカーテン、照明等により調整している。常に空調に配慮し空気清浄器や、時期に合わせて、加湿器を使用している。	壁3面が窓で180度の季節を感じる景色を味わえる。オープンキッチンは食欲を増す良い匂いがし、全体を見ながら声掛けし作業ができるような作りになっている。元幼稚園の先生だった職員の季節に合わせた作品が壁に飾られ、温かい、楽しい空間になっている。皆の音がする居間で横になれるベッド・ソファを置き、部屋に行かずに過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや椅子を設置しており、相性、体調を考えた席替え等をおこない、穏やかに過ごせる様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り使い慣れた物を居室内で使用してもらい、穏やかに居心地よく過ごせるように工夫している。	ベッドを部屋の中央に置き、手すりまでのつかまり棒代わりにしている人、窓際や壁に平行におくなど個々の状態に合わせた工夫をしている。テレビ・仏壇・筆筒などを持ち込み、手作り作品を飾るなどして明るい部屋になどその人らしい居心地の良い部屋になっている。居室の前に解りやすい手作りの表札を掲げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の筆筒、ベッドの位置の変更等をし、安全に自立できるように工夫している。トイレにおいては、男性用、女性用の区別が判りやすいように大きな文字で表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600493		
法人名	有限会社 富南		
事業所名	グループホーム富南の郷里 (2階)		
所在地	静岡県三島市安久660番地の10		
自己評価作成日	平成26年 10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JizyosvoCd=2270600493-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34		
訪問調査日	平成26年 12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『富南の郷里』は、伊豆の玄関口の三島市の最南端に、函南町との境にあります。豆州志稿の秋山富南が生まれ育ったおよそ3000坪の敷地の中に2階建てで建てております。北に富士山、東は箱根連山が見渡すことが出来、心しみ、ゆっくり、ゆったりとした時間を過ごせる環境です。三島市安久の近隣の人たちのご理解とさまざまな応援に支えられ「その人と共にある」を常に想い、ご家族をはじめ、地域の方々と連携をとりながら職員一同、地域福祉のために努力してまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人たちと共にゆったりゆっくりと第三の人生を伴に歩む。」理念に向けて、ゆったりとした空間、時間を公平・平等に提供できるように日々取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組に所属し自治会の行事に参加したり、町内清掃を一緒に行ったりしている。子供駆け込み110番の指定もうけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議の中で地域包括と、共に認知症ケアの勉強会等をおこない、近隣町内の情報も得て参考にしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハット・事故報告書・行事など、議題を設定し行っている。入居者様のサービス状況を報告し、助言をもらいサービス向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会等に積極的に参加し、情報交換でホームの運営やサービスの向上、地域との交流に役立てている。また市町村担当職員などと連絡を密にし、相談、助言を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会をおこない、理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故等発生してしまったらすぐに事故報告書を作成し、職員全員のサインを記入し報告と情報の共有に努めている。ユニット会議でも議題に上げ、職員の言動が虐待になっていないか指導している。		

静岡県(グループホーム富南の郷里 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に付いて学び、必要性に応じ関係者と報告、連絡、相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご家族等に同席していただき、契約書及び重要事項説明書の読み上げを実施し、納得した上で契約終結をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関入口に設置。面会時など、話す機会を持ち、日頃から意見、要望を聞いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ユニット会議などで、職員の意見や、提案を聞き機会を設けている。代表者は管理者会議において、管理者との意見交換をおこなっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の分配状況、給与明細の見方を作成し開示している。職員の職務における達成度について評価をおこなったり、資格習得における個々の向上心を把握し処遇につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に合わせ、シフト上可能な限り研修機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる、管理者会議、運営推進会議、グループホーム連絡協議会にて情報の共有、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とコミュニケーションをとりながら、傾聴し、話しやすい雰囲気をつくるように、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学、相談にてご家族等の不安を減らせるように話を伺い、ホームの説明をし、ご家族の不安を少しでも解消できるようにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、面接時に伺った情報及び、入居前に受けていたサービス事業所より情報提供を受け、必要な支援を見極めている。また、他のサービスが必要であれば情報を提供し対応につとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取り、生活のパターンや今出来る事を知り、出来ることはしていただき困難な事は、職員と共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況を伝えたり、ご本人の意向をふまえ今後の支援についての話を面会時等に話し合い、出来る限りのご家族のかかわりをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族、親類、友人等の面会の時間を大切に考え、面会時にはゆったりとした時間を過ごして頂けるように努めている。外からの来客者には、又気軽に越しいただけるように言葉掛けをさせていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リクレーション、散歩等で皆で楽しみながら孤立しないように支援している。		

静岡県(グループホーム富南の郷里 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族が訪問してくれたり、手紙にて近況を知らせてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から出てくる言葉、表情、しぐさなどから入居者様の思いを把握するように努めユニット会議などで職員間で共有し、本人の意向に沿えるように検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、居宅の介護支援専門員等から話を伺い、記録に残して情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に生活記録・業務日誌・生活チェック表などに記入し、申し送ることで暮らしの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間の気づきは、記録して、ユニット会議にて話し合いをしている。必要に応じて、ご家族にも参加をお願いし、ナース、主治医の意見もふまえ、より良い生活が送れるように考えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートに、いつもと違う状況や新たな気づきを記録し、ユニット会議で話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	弊社における同事業間の会議で話し合い、可能な限り要望に近づけるよう取り組んでいる。		

静岡県(グループホーム富南の郷里 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園、神社への散歩、店での買い物など暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医に通院していただくか、ホームと連携している訪問診療の医師に移行するかは、ご本人と、ご家族等の希望に沿って決めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師に、報告、連絡、相談をし、個々の利用者様が、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、入院前の体調変化やバイタルチェック、ADL等の情報を提供し、面会時や電話で、病院関係者と連絡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルの説明を行い終末期の希望を聞く。重度化した場合は、ご家族等の意向を確認し、医師を交え職員、ご家族等と話し合いを持ち方針をたてている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し確認、対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回以上の防災時の訓練、緊急連絡網を作成し、通信・連絡方法の職員訓練をおこなっている。風水害や地震を想定した避難マニュアルを作成し、地域運営推進会議でも防災の話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	受容と共感に留意しつつご本人の思っている現実をなるべく否定しない対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、ご本人の希望にそえる様に心がけている。希望にそえない時は、分り易く説明をして出来る限りの自己決定を促す様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調等を考慮しつつ、一日をどの様に過ごすのか、ご本人の希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容師を利用している。御家族と共に外出し、美容院に行かれる方もいる。着替え準備の際には、ご本人が選べるように職員が関わり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつは、一部好みを聞いて提供している。食器拭き、テーブル拭きなど、その方に合った役割分担をさせていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調管理表を使用して、食事量、水分量の把握をしている。一日の摂取カロリー、栄養バランスは、業者に依頼、一人一人の状態に合わせた食事形態で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを個々に実施している。自力でのケアが困難な方は介助にて実施している。眠前には義歯をつけ置き洗浄していただくように、言葉かけ、介助している。		

静岡県(グループホーム富南の郷里 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握して、言葉がけ、誘導するなどして、自立に向けた支援をおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便の周期の把握に努め、朝食前に牛乳を飲んでいただく。水分補給(果実ゼリー)体操の参加を進めている。必要あれば主治医に相談し、排泄のコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週二日入浴していただけるようにし、体調等により入浴出来ない日は、日を入れ替えるなどの対応をしている。状況によっては、時間を問わず、シャワー浴などの対応もしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調に応じて、居室に誘導して休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成して内服薬の把握に努め症状の変化の確認に努めている。必要に応じて主治医、看護師、薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、個々の力に合わせて出来る事を行っている。花見、外食、ドライブ、催し物などの参加も個々に呼びかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の体調に配慮しながら、天気の良い日は、出来るだけ散歩に出かけるようにしている。個々の歩行能力に応じ、少人数で対応している。		

静岡県(グループホーム富南の郷里 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の際にご家族等にトラブルがあり得ることを説明し、希望があれば必要最低限のお金を所持してもらっている。買い物に同行した際には希望を聞き、後日請求書として購入もしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞い等、出来る範囲でご本人に書いて頂くように支援している。書けない方には職員が代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活音や外の音を楽しみ、日中の光に対しては、カーテン、照明により調整している。1年を通じ空気清浄器や、季節によって、加湿器を使用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを2脚置き、テレビ鑑賞の際に座ったり、思い思いに過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、ご本人の希望されたものを、置いている。ご本人、ご家族等、職員で相談し、過ごしやすいように、配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には、極力歩行に障害になる様な物を置かず、歩行の際の安全に配慮している。トイレ、浴室等に張り紙を貼り、居室との区別が判りやすいように表示している。		